国民のすべての要求をかかげて

中央メーデー参加記

佐多稲子

十時すぎ、会場の附近はもうデモに移っている。かなりの雨の中を、ぬれた髪がべったり額に垂れるのもかまわず、腕を組んで歌っていく若い婦人労働者の顔が昂然として、今日の、われらの日を感じさせる。縦横のどの道も雨にぬれたままデモの人で埋まって、立木の枝をはじいている。雨が降っても今日はわれらの日なのだ。歌声が雨の中で広がっている。おそろいの黄色のベレーが、白いベレーが、青や白のマフラーが水をふくんでいる。が、その顔はみんな歌って、今日は男が男らしく、女がいきいきと見える日だ。ふだんのひとりひとりの表情は、複雑にいろんな疲りをかぶっているのにちがいない。その疲りを今日は吐き出している顔だ。

みこしまがいの張りぼてだけが雨にたたかれて今日は効果を出していない。プラカードも映えないが、そのプラカードに見える文字は、安保条約反対！

今年はこの二、三年来もっとも多かった原水爆実験反対にかわって、安保条約反対がもっとも自立つ。目前に日本の独立と平和をおびやかす安保条約改悪をひかえて先ず根本のこの要求は正しい。労働者の政治感覚として敏速に、万人の要求をはっきり示している。

このプラカードをかかげて、自民党本部前と議事堂前のじぐざくデモは当然。その前に列を敷く警官の数。警視庁の自動車の拡声器から、「じぐざくはやめなさい！、指導者は正しいデモに移るよう、指導しなさい！」と。その命令的な言葉づかいが耳にひっかかる。安保反対のプラカードにまじって自労のおじさんおばさんのかかげた「私たちのお願い！母と子が生活できるよう、八〇円の賃上げを！」という要求は、臨時雇いを本雇いに！、と訴えたプラカードとともに印象。また、松川の被告を救え！、と書いたプラカードをかざしていく組合に、私も直接の共感をそそられる。

渋谷駅近く来て雨があがり、旗の色がようやくさえて、はるか先きまで重なって揺れているのが見えてくる。金言貨の若い婦人たちの姿も浮き立ってくる。朝からの強い雨で今年のメーデーは、華やかな色彩の効果を消したことはたしかだろう。が、雨に打たれ、ひどいぬかるみを踏んで、むしろ、われらの日の意義は気持の中に集中したようにも見えた。これは私の主観のせいかもしれない。私はあんまりメーデーのデモが華やかにお祭り的に見えるとき、少し割り切れぬものを感じるからである。

もっとも家族ぐるみの参加の姿は美しい。今年も合羽をきた小さい子の姿があちこちで見えた。

新宿の解散地で全学連のデモにまたおびただしい警官の列。再び拡声器から、「正しいデモにうつりなさい！」と命令的口調が同じ全然同じ命令的口調は、今年の警視庁の方針であるらしい。何故、今年は殊更、命令的になったのか？、二、三年来の猫なで声で、「おつかれさまでした」といわれてくすぐったかったのと対しよう的に引っかかる。「うつりなさい！しなさい！」といったあとで声音まで変えて「御通行のみなさん、メーデーで大変ご迷惑をおかけしていますが今しばらく云々」といった。メーデーのデモと御通行のみなさんとを意識的に切り離そうとするのである。メーデーのスローガンが御通行のみなさんに関りない要求をかかげておりはしないもっとも直接に結びついて社会保障制度の確立から安保条約反対に至るスローガンは、日本国民全体のものである。独立と平和を願うすべての国民の今後につづく要求なのである。今日の日を闘った全組合員にこのことを訴える。

（筆者きた・いねこさんは作家）

世紀の実験「人民公社」

なるほの本棚 (31)

開く歴史の新世紀

〝公社にしよう〟のかけごえにかみなりのようなどよめきがわき
千万の婦人は解放され
老人はみなられしなき
いきいきとして、素朴で、気魄がこもっており、新生活を建設する広範な庶民の決意と情熱をぴったりとえがきだしています。

このように全人民にささえられその力で建設されている新中国の新しい組織「人民公社」の運動を正しく紹介したこの本、「人民公社――世紀の実験」は、中国共産主義青年団北京市委員会宣伝部の論文「共産主義とはなにか、どのようにして共産主義を迎えるか」を第一部に、広東人民出版社発行の「人民公社問答」を二部に訳出してまとめ、付録として中国共産党中央委員会の「農村において人民公社を設立する問題についての決議」「人民公社のいくつかの問題についての決議」をのせています。

また人民公社運動を理論面から説明する第一部の論文では、この運動は生産手段私有制をなくして全人民所有制に切りかえ「各人はその能力に応じてうけとる」共産主義社会へ移行する道すじであるといい、工、農、商、文化教育、民兵が一体となり村と公社が一つに合併して経済、政治、軍事、文化を結びつける社会の基礎組織をつくることだと解説しています。

私たちはいま、労働者の生活の破滅で繁栄を維持しようとする資本家の露骨な攻撃と対決して「生活」と「平和」を守るきびしい闘いをつづけていますが、この闘いを正しく発展させるためには、私たちの闘いが明るい未来を建設するものであるという確信が必要です。

その意味でこの本が、中国の人民たちの希望に燃えた力強い社会建設の模様を通じて、私たちの闘いを勇気づけてくれることを確信し、ひろく仲間のみなさんに一読をおすすめいたします。

アジア通信社　篠原則省
毎日新聞社　上野稔　訳
理論社　一九〇頁　二三〇円
書記労　たけした・よしひろ

＝トピック＝ 笛吹けど踊らず

ワシントンの防空演習

さる十七日、アメリカの首都ワシントンで突然、空襲警報がなりひびいた。

敵爆撃機が水爆を投下し、首都は重大な被害をうけた。ラジオテレビも完全にストップ、市当局はただちにヘリコプターで臨時防空司令所へ……。

これは、ワシントンの防空本部のよびかけでおこなわれた防空訓練だが、かんじんの一般市民は、きわめて冷淡だった。

市の中心部では自動車も歩行者も平常どおりで、関係者をなげかせていた。

＝映画紹介＝ 庶民の生活感情描く

お早よう

小津安二郎監督

★…（松竹）映画界初の芸術院賞を受賞した小津安二郎監督の作品で、現代の庶民風俗と生活感情を中心の秘密をユーモアたっぷりに描いている。佐田啓二、久我美子、笠智衆、三宅邦子、杉村春子、設楽幸嗣などベテランが出演。

★…小津監督は演出の感想を「世の中にはいろんな言葉があり、お早ようとか、こんにちわとか、むだな言葉もあるが、それはそれで生活の潤滑油と」必要だと思うまた大事な言葉はなかなか云うことができない。憂しあっている男女でもお互い愛するとは云えなくて、会えばいいお天気ですねとかなんとか、そんなことばかり話していることが多い。この作品では子供が重要な役割を演じているのが特徴だ

（12日より大天地で）

雑記帳 (19)

社会党と共産党
―組織の力を統一するために―

灰原茂雄

みんなの真剣な努力でやっと地方選挙が終り、引きつづいてすぐ私たちは参議院選挙に突入していますが、一方、難航を予想される三池の山元交渉も目前だし「生産制限」による企業の激化も新たに必至で、その上に売国的な「安保条約改悪」が緊急問題として重視されています。

このような情勢に階級的に力強く対処することが先決なはずですが、そのような立場で前号の「雑記帳」にのった池田昭二さんの所論を念頭におきながら、以下私見を述べたいと思います。

労働組合の政治活動

独占資本やその代弁政府は、周知のとおり口を極めて「労働組合の政治活動」を非難して来ました。その非難の第一は、たとえば「破防法」や「警職法改悪」や「安保改悪」などに反対するわれわれの政治行動に向けられ、第二は、われわれの「選挙闘争」にであります。

独占はその「支配」を永続させるためだけに、労働組合の任務は「経済的向上」に限定されるべきだと強調していますがかれらは古今洋の東西を問わず「政治ストー」の禁に乗り出し、同時に「政治資金・選挙資金」を組織が調達力ンパすることを組合基金の勝手な「流用」だとして非難するのが常とうでした。

しかしわれわれは、いまからも独占をおそれるための政治的な「支出」を組合基金の「勝手な流用」とは考えない。「安保改悪反対ゼネ・スト」を「賃闘・企闘スト」などと区別して逃げ腰になることはできません。

これは原則論ですが、労働組合が「解放」を希う限りは、敵から「政治活動」といって非難されるような行動や構えが、今後も絶対必要だからです。

社会党と共産党

しかし「労働組合の政治活動」は、直接的に議会の中での闘争ではなく、それは社会党・共産党などの革新派のバックとなるべき力であることはまちがいありません

そしてここに、組合と政党の階級的な関係があり、共闘の極めて強い必然があるわけです。

しかも、こんどの地方選挙の実績が示しているように、組合組織の実力を無視しては「革新派」の前進などあり得ないわけだし、右派のいう国民政党論など全く無意味な言葉の遊びにしかすぎません

端的に私がここでいいたいことは、労働者階級の歴史的任務であるところの、賃労働を止揚し労働者を人間として解放する「革命」が決して共産党や社会党だけの力では達成できるものではない、ということです。

つまり、共産党や社会党は「党が革命をやるからついてこい」ということをどなるのではなく、組合に組織が、いわゆる「歴史的任務」にめざめ且つ耐えうるような「力」をもつように働きかけることに、当面最大の任務を置き、これを絶対的な「組織づくり」として考えるべきだと思うからです。

そしてこの意味では、残念ながら共産党や社会党の現状はまさに「落第点」だといって過言ではありません。

なぜなら、党の「うぬぼれ」や指導を忘れた「ごますり」などもつてのほかだからであります。

組織の決定を守ろう

さて、組合内にも共産党員や社会党員がいます。これらの階級政党員は、前記のように、労働組合を「歴史的任務」に向つて前進させる貴重な分子でありオルグであるはずですが、何といつても余りにも少数です。

次にいずれにしても、これらの党員はいわゆる「組織づくり」の先ばつ者でなければならないはずです。

だからかれらは、党としての共産党や社会党がまず第一に「組織の統一を乱さない」ことを前提としてのみ活動できることを強く銘記すべきです。

もちろん、労働組合の現状水準からみていわゆる「組織決定」に不十分さや場合によつては誤まりさえもがあり得ることは予想されますが、しかしそれを改善するためにも「組織決定の無視」や「反対行動」は絶対に許されないと私は考えます。

つまり、労働組合は階級政党とちがつて「大衆団体」なのですから、いつでも性急さやべつ視を以て立ち向つてはならないし、民主的運営である限り、あくまで「組織決定の尊重」の上に立つて、換言すれば「組織の自主性」の中からの「前進」を図り、外からの「引きまわし」を避けるべきだからです。

もちろん、組織内の党員は、大衆闘争の先頭に立ち、大衆の信頼を得るために全力をつくすべきだし、相互に競争することは極めて大切なことと言わねばなりません

したがつて、組織内の党員は一般組合員と共に決定をみるまでは大いに討論に参加し自説を主張すべきですがあくまで「決定尊重」の立場に立つことが当然だということを認識すべきです。

池田さんが言つている様に「みちくる潮のような前進」が、いまわれわれの周囲にみられますが、それとても、労働組合を中心とする組織強化を抜きにしては考えられないことで、決してそれは無組織のままの一般的な表現での「全人民」の前進の結果ではないわけで、労働者階級と資本家階級のたたかいが激化し組織労働者の団結と統一が前進しつつあるからです

次にまた、公認候補の組織決定を例にとつても、これを「政党支持の自由」ということだけでは反対できない事態があるはずです

なぜなら、組織票の集中を果さない限り、それは分散され保守反動に浮動することになるからです

次にたかいで鍛え上げられ「組織づくり」に政治家（革命家であるべし）が続々と輩出されるはずではないでしょうか。

組織の力を分裂させないで如何にして統一して前進させるかが、われわれの前向きの討議でなければいけないと思います。

（本部・書記長）

× × ×

好評発売中
社会主義 No.2 理論と実践
勤労者の学習教科書シリーズ
＝内容＝
日本資本主義の発展段階と諸階級――向坂逸郎
空想的社会主義と改良主義――長坂聡
日本社会主義運動のれい明期――川口武彦
社会主義と社会主義運動の前半史――奥田八二
社会主義の概念――岡茂男
社会主義の哲学――佐藤進
戦後の社会主義運動――小島恒久
B6版250頁　定価220円　送料24円
続巻予定
第一巻　経済学
第四巻　労働法
第五巻　日本資本主義
第六巻　農民運動
第七巻　賃金論
労働運動 No.3 理論と実践
新装再版出来
＝執筆者＝
山川均　奥田八二
山川菊栄　岡十万男
篠藤光行　藤田若雄
相原茂　灰原茂雄
東京都千代田区六番一町目自治労会館内
労働大学　振替東京 42530